

平成26年度

まちづくり懇談会実施結果報告書

(城山地区)

宇都宮市総合政策部広報広聴課

**平成26年度 第8回  
まちづくり懇談会《城山地区》実施結果報告書**

この実施結果報告書は、まちづくり懇談会《城山地区》における発言の要旨をまとめたものです。

- 1 開催日時 平成26年11月11日（火）午後6時30分～午後8時00分
- 2 開催場所 城山地区市民センター
- 3 参加者数 58人（市出席者除く）
- 4 市出席者 市長，総合政策部長，広報官，地域まちづくり担当参事，  
城山地区市民センター所長，土木管理課長，広報広聴課長
- 5 懇談内容

(1) 地域代表あいさつ

城山地区コミュニティ協議会会長

(2) 市長あいさつ

(3) 地域代表意見

No.	テ ー マ	所管課
1	城山地域の活性化① 観光拠点としての今後の取組等について	観光交流課，交通政策課， 土木管理課
2	城山地域の活性化② 多気山登山道の整備と多気城跡地の活用について	観光交流課，文化課

(4) 総合計画の6つの柱に基づく意見交換

テ ー マ		
市民の安全で健康な笑顔あふれる暮らしを支えるために		
(1) 高齢期の生活を充実する		
(2) 愛情豊かに子どもたちを育む		
(3) 危機への備え・対応力を高める		
No.	意 見	所 管 課
1	宇都宮市の将来設計人口について	政策審議室，高齢福祉課
2	緊急用のヘリポートについて	消防本部警防課

(5) 自由討議

No.	要 望	所 管 課
1	ごみのポイ捨て防止について	廃棄物対策課
2	(仮称)大谷スマートインターから観光大谷へ繋げる橋を！について	観光交流課, 土木管理課, 農業振興課
3	廃坑の安全対策について	産業政策課
4	駒生運動公園併設の射撃場跡地について	政策審議室, 環境保全課, 文化課, スポーツ振興課, LRT 整備推進室
5	森林公園付近への施設整備について	スポーツ振興課, 公園管理課
6	まちの景観について	都市計画課, 河川課, 道路建設課, 文化課
7	大谷街道の歩道整備について	土木管理課
8	子どもたちへの福祉教育について	高齢福祉課, 保健所総務課, 学校教育課

(6) 来賓あいさつ

地区居住市議会議員 渡辺 道仁 氏

地区居住市議会議員 細谷 美夫 氏

(7) 市長謝辞

## ■地域代表意見 1 (要旨)

テーマ	<b>城山地域の活性化① 観光拠点としての今後の取組等について</b>
-----	---

市長においては、日頃から、地域まちづくり組織等に対して、御理解・御支援をいただき感謝申し上げます。

特に、協働の地域づくり支援事業補助金制度に、本年度より新たに加わった、事務局支援事業については、地域から長年、要望していた事業であり、地域組織の強化のため、非常に役立つものと考えており、改めて感謝申し上げます。

さて、本市では、将来の都市空間のあり方として、「ネットワーク型コンパクトシティ」の形成を目指しており、城山地域については、「平和観音」をはじめ、「大谷磨崖仏」、「多気城跡」などの歴史的文化遺産や、「御止岩」、「越路岩」などの奇岩群、「大谷景観公園」などの大谷石を中心とした、本市唯一の観光拠点と位置づけられており、地域としても誇りであり、今後のさらなる発展を期待している。

そのような中、当地域においては、将来の地域のまちづくりの指針となる地域ビジョンの策定に向け、現在、「城山地域ビジョン策定委員会」を立ち上げ、「5年後、10年後の城山地区のあるべき姿」の実現のための検討を行っているところであり、さらに、委員会においては、具体的な事業を検討するため、四つの作業部会を設置したところであり、その作業部会の一つに、観光(イベント)・産業・歴史、文化等を検討する「観光・地域産業部会」を設置し、特に、地域の観光・産業の発展に向けての検討を行っているところである。

そこで、この城山地域の活性化と住みよいまちづくりを目指す、まちづくりの組織であるコミュニティ協議会から、何点か伺います。

はじめに、観光拠点としての取組みについてであるが、策定委員会や作業部会、さらには地域アンケートの意見において、当地域には、素晴らしい歴史的・文化的な地域観光資源はある一方、多くの観光客が来ても、ゆっくりと休憩する場所、買い物をする場所が少ないとの意見がある。観光拠点として位置づけ、さらに促進させていくためには、それらの意見に対応するための環境づくりが必要であると考えます。

そこで、本市の目指す、観光拠点として促進するため、市としては、今後、どのように取り組んでいくのか、教えていただきたい。地域としても、今まさに将来の地域ビジョンの策定を進めているところであり、その考えを念頭に策定を進めていきたいと考える。

次に、観光拠点への交通アクセスについてであるが、観光拠点として拠点化を促進するためには、公共交通の利便性と、自動車のアクセス性に優れた拠点の形成があげられている。宇都宮は「餃子のまち」、「カクテルのまち」、「ジャズのまち」として、週末には多くの観光客が鉄道やマイカーを利用して、本市を訪れる。

このようななか、観光拠点として促進するためには、特に、鉄道を利用し、駅に降

り立った観光客を中心市街地から観光拠点である城山地域に足を伸ばし、立ち寄ってもらうための、利便性の高い公共交通網が不可欠であると考えます。是非、公共交通の確保と充実に取り組んでいただきたい。

また、自動車のアクセス強化につながるものとして、(仮称)大谷スマートインターの整備が2020年頃に計画されており、現在、大谷街道の拡幅工事が進んでいる。このスマートインターの整備は、将来、観光拠点化の促進、さらに城山地域の活性化に大きく繋がるものと考えるので、スマートインターから大谷街道へのアクセス道路は、いつ頃に整備される予定なのか、併せて伺いたい。

<b>回 答</b>	<b>所管課：観光交流課，交通政策課，土木管理課</b>
------------	------------------------------

【市長】

城山地域は、観光地の大谷を所有する素晴らしい地域であると思っている。当然のことながら、大谷は宇都宮を代表する観光の名所である。これから交流人口を増やしていく中で、大谷地区を観光地として活用していくことが大切になる。日光に来る観光客に宇都宮へ立ち寄っていただくためには、観光地である大谷を活用していかなければならないと考えている。

東日本大震災の影響により、大谷への観光客が減少したが、昨年4月の大谷資料館の再開を始めとして、民間事業者や地域の皆様の御尽力により、昨年の大谷の観光客は26万人となり、前年と比較すると約8万人増加した。皆様の御尽力に心から感謝を申し上げます。

本市としても、大谷の観光客数を増加させるための誘客促進が必要と考えており、首都圏での観光キャンペーンや旅行雑誌等への掲載などにより、「石の里大谷」を積極的にPRするとともに、交通事業者や大谷資料館などと連携した「大谷観光一日乗車券」の発行やジャパンカップに併せたキャンペーン開催のほか、大谷石採取場の跡地を活用したカヤック等の体験型ツアーへの支援や産学官の連携による「夏季いちご栽培」の実証実験など、地域産業と連携した新たな観光資源の創出に向けた取組を行っている。

また、来訪客に満足していただくためには、おもてなしのある受入環境の充実が必要であることから、本市としても大谷の魅力的な岩肌景観の維持に取り組む地域団体や大谷に新たに新店する飲食店、土産品販売店への整備、改修費用等を補助するなどの支援も行っている。今年7月には、大谷駐車場北側に大谷石造りの古民家を活用したカフェが開店するなど、取組の効果が現れている。

今後とも、観光客の増加によって新たな飲食店や土産品販売店等が新店され、観光客へのおもてなしが充実するという好循環が生まれるよう、引き続き、積極的な誘客促進に努めるとともに、新規出店する飲食店等への支援制度の積極的な活用に向けたPRを強化するなどし、大谷の観光推進に取り組んでいきたいと思う。地域の皆様、民間事業者の皆様には、大谷のために、宇都宮のために、御協力いただきたいと思う。

また、「5年後、10年後の城山地区のあるべき姿」の実現に向けた「地域ビジョン」

の策定に大いに感謝を申し上げますとともに、その成果に期待していきたいと思う。本市では、南北方向に延びる鉄道、東武線やJR線、そして東西方向を繋ぐLRTを基軸として、バスによる幹線・支線公共交通や地域を面的にカバーする地域内交通などが、相互的に連携した階層性のある公共交通ネットワークの構築に取り組んでいる。現在、宇都宮駅から大谷資料館方面へのバス路線については、土日・祝日が1日当たり44便、片道22便運行しているところであり、今後のLRTの整備やバス路線の充実により、本市の代表的な観光拠点である城山地域への交通環境は向上するものと考えている。

今後とも、鉄道やバスの連携強化など、利用者の視点に立った利用しやすい総合的な公共交通ネットワークの整備に努めるとともに、今年7月から11月までの期間限定で試験的に導入した「大谷観光一日乗車券」については、非常に好評であるため、年間を通じた発行に向け、交通事業者と協議を進めている。観光拠点である城山地域の集客を推進し、拠点性を高めていきたいと考えており、様々な仕掛けを展開していきたいと考えている。

次に、スマートインターチェンジについては、城山地区をはじめとする本市の観光振興や中心市街地へのアクセス向上など、経済の活性化に寄与するものと考えていることから、昨年10月に地元説明会を開催させていただき、現地測量を実施した。整備概要については、東北自動車道と大谷街道の交差部付近への設置を計画しており、一般道への接続箇所は、上り線は健康の森北側入口付近、下り線は大谷街道への接続としている。今年度においては、環境調査などを実施しており、国土交通省やネクスコ東日本、県などの関係機関とルートや構造等について協議をしている。今後は、地元の御理解をいただき、関係機関からなる「地区協議会」を今年度末に立上げ、国に提出する計画書を策定し、国からの承認後、整備に向けた詳細な測量や設計を行い、平成32年度の開通を目指していく。

## ■地域代表意見2（要旨）

テーマ

城山地域の活性化②

多気山登山道の整備と多気城跡地の活用について

コミュニティ協議会として、多気山登山道の整備と多気城跡地の活用について、お伺いしたい。

はじめに、多気山の登山道の整備についてである。

現在、多気山においては、県内外からの観光バスによるハイカーも多く訪れるようになった。この要因の一つとして、多気山周辺の整備を、地域住民が主体となった「よみがえれ大谷プロジェクトエコ実行委員会」が中心に7年前から、年2回（12月と3月）に80名を超えるボランティアの参加による、山道の整備や植栽、植栽後の雑草の

除去などの取組、また、頂上である御殿平においては、高木の伐採や花木の植栽などの取組により、現在は、関東一円が展望できるすばらしい場所となった。この眺望と環境改善が口コミで広がり、ハイカーが増えたものと思っている。

しかしながら、この登山道は、ほとんどが赤土であるため、大雨が降ると道が川とになってしまい、登山道の真ん中がV字になっている状態のところもあり、大変、登り難い状況にある。地域としても、これまで、市からの支援をいただきながら、できる範囲において、登山道の整備を行ってきたが、こうした取組みにも限界があり、さらなる支援をいただき、女性や子どもでも登りやすい登山道となるようお願いするものである。

二つ目は、歴史的遺産である多気城跡地の活用である。

多気城は、戦国時代の末期に、宇都宮市が小田原の北条氏の進出に備えるため、本拠地にしたといわれ、歴史上重要で、宇都宮の大きな文化遺産である。

また、先ほど説明した頂上の御殿平においては、当時の宇都宮城主が眺めたであろう、関東一円の眺望が復活し、歴史のロマンも体験できるようになった。この歴史的な価値がある多気城跡地を後世に残すため、現在も多く残っている遺構の調査等を行い、土塁や建物等の遺構をしっかりと残し、四季折々の自然も楽しめ、多くの方に訪れてもらえる場所としていただければと考える。

以上、2点について、意見を述べさせていただきました。

最後になるが、城山地区には、歴史的観光遺産と豊かな自然環境がたくさんある。地域としても、これらを結びつけ、活気溢れる城山にしていきたいと思うので、是非、御協力をお願いする。

<b>回 答</b>	<b>所管課：観光交流課，文化課</b>
------------	----------------------

【市長】

多気山のハイキングコースについては、多くのハイカーの皆様から「山頂からの眺望が素晴らしい」「こんな景色はまず無い」というような御意見をいただいている。このような評価をいただいているのも、「よみがえれ大谷プロジェクトエコ実行委員会」をはじめとした地域の皆様が、登山道の補修や樹木の伐採、さらには花木の植栽等に取り組んでいただいているからであり、感謝を申し上げます。

本市では、これまで、コース案内板や山頂での眺望案内板の設置、登山道入口における階段の整備を行うとともに、地域の皆様へ資材等を提供するなどし、多気山のハイキングコースの充実を図ってきたところである。このような地域の皆様と連携した取組により、多気山ハイキングコースは、豊かな自然に親しむことができる観光資源の一つとなっている。

近年、ハイキングのニーズが高まっていることから、実際にハイキングコースを整備していただいている皆様の御意見をいただきながら、本市としても登りやすく快適に楽しんでいただくための更なる取組や支援について、考えていきたいと思う。

次に、多気城跡については、戦国末期に宇都宮氏が本城としたと考えられている大

規模な山城であり、本市の歴史を考える上で非常に重要な拠点であると認識している。

遺構の調査については、平成3年度に林道建設に伴い、東側中腹の大規模曲輪周辺の調査を行い、平成21年度に記録保存に伴う南側中腹の塹堀周辺部分の調査を実施し、土塁や堀の規模、曲輪の配置状況等を確認した。現在、本市では、平成15年度に国指定となった上神主・茂原官衙遺跡の公有化と発掘調査を実施し、基本計画の策定に向けて準備を進めているところであるが、国からの支援なども含めると、その後の史跡整備完了までには長期の時間を要する。

また、多気城跡については、100haを超える広大な面積の山城であり、その保全に係る土地の境界及び所有関係の確定や全容を把握する調査等には、膨大な時間と費用を要する。そのため、多気城跡については、上神主・茂原官衙遺跡の進捗状況を見極めながら、現況把握や歴史資料の収集などの基礎的調査を進めていきたいと考えている。

## ■総合計画の6つの柱に基づく意見交換（要旨）

テーマ	<b>市民の安全で健康な笑顔あふれる暮らしを支えるために</b> <b>(1) 高齢期の生活を充実する</b> <b>(2) 愛情豊かに子どもたちを育む</b> <b>(3) 危機への備え・対応力を高める</b>
-----	---

総合計画は、「5年後の市民の皆様の幸せ、そして100年後も宇都宮市が持続できる都市の繁栄」を考えて策定しているものであり、宇都宮市における「まちづくりの羅針盤」となるものである。

### (1) 高齢期の生活を充実する

10月4日から7日にかけて、健康や福祉に関する多彩なイベントを通じ、高齢者を中心とする国民の健康増進や生きがいの高揚を図る「ねんりんピック栃木2014」が栃木県で開催され、宇都宮も会場となった。

元気溢れる高齢者の皆様が、地域で活躍できる機会を創出することが必要である。また、少子・超高齢社会を迎える中、肥満や生活習慣病を予防するため、市民の健康づくりを推進するとともに、たとえ病気や認知症になっても、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、医療・介護・福祉が連携したケア体制の充実が必要になる。このような中、公益社団法人「認知症の人と家族の会」により、城山地区内において、地域での日常生活・家族の支援強化の取組の一つとして、認知症の本人とその家族、地域住民、専門職等の誰もが参加でき、集うことが可能な地域活動の場として、認知症サロン（オレンジサロン）を平成25年11月から運営している。本市は、この認知症サロンにおける相談業務を、「認知症の人と家族の会（栃木県支部）」に委託し、認知症施策推進を図っている。



また、高齢者の方が、身に付けた知識や経験を地域に生かし、伝承しながら、住み慣れた場所で尊厳を持って安心して生活できることが重要である。

このような理由から、「高齢者が自らの介護予防に積極的に取り組み、住み慣れた地域の中で、健康で生きがいを持ち、また、介護が必要になっても尊厳を保持しながら、安心して自立した生活を送っています。」を今後5年間の望ましい姿として目標に設定した。

目標達成に向けた主な事業としては、高齢者の社会参画の推進などを目標として掲げ、社会の中でいつまでも支える側になっていただきたいということから、今年から「高齢者等地域活動支援ポイント事業」に取り組んでいる。これは、例えば、社会貢献をしていただいたときにポイントを付与し、貯めたポイントを介護保険の保険料に充てることなどができるといふ制度である。このような制度をこれからも行っていきながら、高齢者がボランティア活動に参加している割合を増やしていきたいと思う。

### (2) 愛情豊かに子どもたちを育む

平成25年度の本市の人口は、約51万6千人であり、15歳未満の年少人口は総人口の14%にあたる約7万1千人である。16年後の平成42年には、本市の人口は約1万1千人減少し、約50万5千人となり、年少人口は総人口の約11%にあたる約5万6千人に減少する見込みである。

また、核家族化による世帯構成の変化により、家族や地域で子どもを育てていく考え方や人間関係の希薄化が進行していることから、地域、事業者、行政等が連携し、子育てにやさしい環境を創出することが必要になる。

このような理由から、「地域社会が一体となって、子育ての支援に取り組み、子育て家庭が愛情を持って安心して子どもを生み育て、子どもがいきいきと子どもらしく育っています。」を、今後5年間の望ましい姿として目標に設定した。

目標達成に向けた主な事業としては、「妊娠・出産に対する支援の充実」、「子どもの健康支援の充実」、「保育所、認定子ども園等の整備促進」を掲げている。まず、「妊娠・出産に対する支援の充実」についてであるが、平成20年度から妊婦の検診、健康診査にかかる費用について、全国で最も多い14回助成を実施している。次に「子どもの健康支援の充実」については、小学6年生までの医療費の助成を行っている。最後に「保育所、認定子ども園等の整備促進」についてであるが、認定子ども園の新設や保育所の増改築などにより定員の増加を進めており、本年も240名の定員増を行った。4月の時点では、3年前から本市では待機児童が0になっているが、1年を通すと待機児童が出てしまう時期がある。完全な待機児童0を目指して、民間保育園の御協力をいただきながら整備を進めている。

計画を着実に進めるための主な施策指標としては、「子育てに不安や負担を感じている人の割合の減少」を掲げている。

### (3) 危機への備え・対応力を高める

本市の状況としては、東日本大震災や最近の台風により、安全・安心なまちづくりへの関心が本当に高まっていると思う。災害発生時に、各避難所へ必要な物資を迅速

に届けられる仕組みの構築が大変重要である。そのようなことから、防災備蓄庫を 14 か所から 15 か所に増設するとともに、災害初動時において、一時的・緊急的に避難者を受け入れていただく備蓄避難所を、市内 39 地区の自主防災会ごとに整備した。

城山地区においては、城山中学校を備蓄避難所に指定したところであるが、備蓄避難所は、地域の実情に応じて拡充を図っていくこととしている。先日、各地区の自主防災会に対して意向調査を実施し、自主防災会から御意見をいただいたところであるが、これから対応していきたいと考えている。今後も危機に適切に対処できるよう、災害などに強いまちづくり、災害を未然に防ぐというまちづくりを進めていくことが必要である。

このような理由から、「市民、地域、行政の危機への備え、対応力が高まり、地震や風水害をはじめとするさまざまな危機が発生した場合に、適切な行動ができるようになっていきます。」を、今後 5 年間で望ましい姿として目標に設定した。

目標達成に向けた主な事業についてであるが、今回大規模災害などへの対応として、災害現場の映像をリアルタイムに伝送するシステムの整備を行った。また、防災行政無線（MCA無線）を連絡体制の一つとして活用するということで、避難所や地元消防団に加え、民間福祉避難所などにも新たに配備し、590 台から 608 台に増設した。より早く、よりリアルタイムに情報交換や現状把握ができる体制の整備を図ったところである。

計画を着実に進めるための主な施策指標としては、「自主防災会を中心とした各地区防災訓練開催数の増加を掲げている。

## 発言 1 宇都宮市の将来設計人口について

平成 26 年度の場合、65 歳以上の人口は 12 万弱ぐらいだと思う。その内、介護を必要とする人口数と割合、並びにその仕事に携わっている方がどのぐらいいるのかについて伺いたい。

## 回答 所管課：政策審議室、高齢福祉課

【市長】

平成 26 年度の数字は持ち合わせていないので、平成 27 年度の数字で回答させていただくが、65 歳以上の人口は約 12 万 2 千人であり、介護を必要とする方は大体約 1 割なので、約 1 万 2 千人になるかと思う。介護には、要介護 1 から 5 までであるが、全部含めると相当の方が携わっている。介護に携わっている方が不足しているということは、本市でも大変重要視されているが、介護に携わっている方の人数については、申し訳ないが持ち合わせていない。

## 発言 2 緊急用のヘリポートについて

「市民，地域，行政の危機への備え，対応力が高まり，地震や風水害をはじめとする様々な危機が発生した場合に，適切な行動ができるようになっていきます」とあるが，最近は何らかの事件というか事故というか，よくヘリコプターが出動する機会があるかと思う。城山地区では，緊急用のヘリポートは何箇所ぐらいあるのか。

古賀志町自治会では，まちづくりの交付金をいただいてグランドゴルフ場をつくった。2年目の12月9日にグランドゴルフ場をオープンしたが，それだけではもったいないので，緊急用のヘリポートということで，栃木県消防防災ヘリコプターを降ろすように書類を交換した。その後下福岡自治会が作新学院と交渉して，作新のサッカーグラウンドを緊急用のヘリポートとして利用していると思う。今年の9月上旬に，森林公園で自転車に乗っていた女の子が転倒し，119番へ電話したところ，ドクターヘリが降りて来たということがあった。城山中学校も結構校庭が広いので，緊急用のヘリポートとして使ってみたらどうかと思う。

消防防災ヘリのおおるりは，17年も使用されており，県の話だと新しい機種に取り換えるという話があったので，宇都宮市は栃木県の中心部であり，県人口の4分の1がいるので，市内にもっとヘリポートをつくる必要があるのではないかと考えているので，早急に検討していただきたい。

## 回答 所管課：消防本部警防課

【市長】

城山地区には，古賀志に1か所（古賀志町グランドゴルフ場），大谷に2か所（城山中学校，石野森公園），福岡に1か所（作新学院福岡グラウンド）緊急用のヘリポートがある。

緊急時には，防災ヘリもドクターヘリも降りることが可能な場所には降りると思うが，ヘリポートとして使われる場所がどこにあるかということが分かっていると心強いと思うし，何かあったときにも説明がしやすくなると思う。今後とも，ドクターヘリや消防防災ヘリが降りられる場所について検討していきたいと思う。

## ■自由討議（要旨）

## 発言 1 ごみのポイ捨て防止について

城山中学校では，豊かできれいな故郷をつくるため「みんなできれいに住みよい城山」をスローガンに，毎年，地域の方々の協力を得ながら「城山クリーンアップ」という地域清掃活動を行っている。路上や公園などに捨てられている様々なごみを拾い，きれいなまちづくりを目指すもので，今年で11年目を迎えた。

私たちは，長年，このようなボランティア活動を行っているが，依然としてポイ捨て

てのごみが減らない現状がある。特に、みんなの憩いの場であり、子どもたちの遊び場である公園にごみが捨てられているのを見ると、とても悲しい気持ちになる。

そこで、子どもから大人までだれひとりとしてポイ捨てをせず、きれいなまちづくりができるよう、市民のマナーアップを図る事業に一層力を入れて取り組んでいただきたい

<b>回 答</b>	<b>所管課：廃棄物対策課</b>
------------	-------------------

【市長】

私が市長に就任したのは平成 16 年であり、就任してから 10 年になるが、中学生がまちづくり懇談会に出席し、尚且つ意見を発表したのは初めてのことである。本当に感謝申し上げます。

まず、城山中学校の皆様には、PTAや自治会の皆様と協力して、長年にわたりごみ拾いや除草、カーブミラーの清掃など、城山地区の美化活動に積極的に取り組んでいただき、心から感謝を申し上げます。また、地域の皆様も中学生と一緒に、地域の清掃活動や不法投棄監視パトロールなどに取り組んでいただき、本当に感謝申し上げます。このような活動や取組がごみを捨てにくい、捨てられないという環境をつくっていくのだと思う。

本市では、平成 20 年に「宇都宮市みんなでごみのないきれいなまちをつくる条例」を制定し、市民の皆様、事業者、行政が協力・協働して「きれいなまち宇都宮」の実現を目指していこうというものであり、多くの人が集まるイベントなどでチラシを配布したり、広報紙やホームページによりポイ捨て防止を周知するなど意識啓発に努めてきた。特にポイ捨てで多い空き缶やペットボトルについては、持ち帰って分別すれば資源となり、ごみの減量化にもつながっていくものと考えている。本市としては、改めて全自治会回覧による条例の周知、ポイ捨て防止やごみの持ち帰りを促す看板の配布など、より一層の意識啓発に努めていくとともに、引き続き、ごみ袋の配布や集積したごみの回収など、地域の清掃活動への支援を徹底して行っていきたいと思う。

今後とも、市民のマナーアップにつながるような意識啓発や活動支援に努めていきたいと思う。「きれいなまち宇都宮」の実現のためには、大人だけではなく、中学生や小学生の皆様にも御協力をいただきたいと思う。大人になっても忘れないで頑張りたいと思う。

<b>発 言 2</b>	<b>(仮称) 大谷スマートインターから観光大谷へ繋げる橋を！について</b>
--------------	---

はじめに、平成 22 年のまちづくり懇談会において要望した、多気山の展望台の整備については、先ほど、コミュニティ協議会会長からも話があったが、市の協力により、眺望の確保、案内板の設置、登山コースの修復を行うことができた。

これにより、今では城山のシンボルとなり、四季折々を楽しみながら、手軽に楽し

める登山コースとして、地元の健康づくりの場として、広く活用されるほか、地元以外の多くの方々の来場をうれしく思う。あらためて、市の支援・協力に深く感謝申し上げます。

さて、城山地区は、宇都宮市の中心部から北西方向におよそ4キロと、比較的近いところに位置している。また、大谷石採掘の全盛期の頃、大谷には荒針駅があり、この駅は、大谷石の運搬・観光見学の玄関口として使用していたと聞いている。

このような城山地区において、2020年には、(仮称)大谷スマートインターが整備される計画とのことであり、私たち城山地区としても大変うれしい思いである。スマートインターができた暁には、県内外からも多くの方々が大谷に足を運んでくれることになろうかと期待している。

このような中、現在、城山地区では、将来の地域のまちづくりの指針となる地域ビジョンの策定を行っているところである。先日、地域の方々にアンケート調査を行った集計結果がまとまり、多くの方々から、大谷の観光に来て、休憩所がない、飲食店が少なく、不便であるという意見が出されている。

そこで、城山地区には、大谷石でできた建物や蔵がたくさんあるが、現在は、使われてなく老朽するもの、残念ながら取り壊されるものがある。取り壊すことは簡単であるが、新しく建てることは困難である。

大谷は昔から石の街として知られており、例えば、JAの使われなくなった石蔵の倉庫など、この重要な石蔵を観光の拠点として活用するため、休憩所・農産直売所を設け、子どもたちからお年寄りが休めて語らいができる場をつくり、石蔵を「城山まちの駅」として、復活させてはどうか。大谷を一日満喫できるよう、まちの駅(城山まちの駅)を整備し、「大谷に来て・観てよかった」、「地域の人・石に触れて感動した。」「また、大谷にきたい」と言ってもらえるような、まちにしてはどうか。

城山には、果物、野菜、花、そして、餃子日本一に貢献している大谷石蔵味噌餃子がある。城山ならではの特色を持った、唯一の城山まちの駅を設けて、地域の語らいの場、県内外からのお客様の観光拠点の場をと考えている。

そのためには、スマートインターからの道路の整備、道路の拡幅を、また、県内外から来やすいように観光拠点としての案内板、マイカーや観光バスの駐車場等を整備することにより、地域の活性化に繋がるのではないかと思います。

さらに先日、市の将来像である「ネットワーク型コンパクトシティ形成ビジョン」の話聞く機会があった。地域ごとに拠点として、「住む・憩う・働く」など、市民生活に必要な施設や機能を確保するといったもので、城山地区は観光拠点として憩うを中心に発展させ、「子どもから高齢者まで安心して便利に暮らせる魅力のあるまち」として、人口減少・少子高齢化に対応していくと伺った。

そこで、産業・観光を維持発展していくためにも、どうぞ、「城山まちの駅」の実現に向け、是非、市としてバックアップしていただけないか。そうすることにより、子どもたちからお年寄りが集い・語りの場が大きく繋がり、地域の活性化になり、市で描いている「住む・憩う・働く・学ぶ」拠点に近づくのではないかと考えている。

私たちも微力ではあるが目的に向かって頑張っていこうと思うので、城山地区食生活改善推進員協議会からの要望として、市の支援と協力をお願いしたい。

<b>回 答</b>	<b>所管課：観光交流課，土木管理課，農業振興課</b>
------------	------------------------------

【市長】

城山地区食生活改善推進員協議会の皆様には、日頃から大変お世話になっており、感謝を申し上げます。

御提案いただいた「城山まちの駅」についてであるが、観光地大谷にこのような施設があれば誘客につながっていくと思うし、おもてなしにもつながるものだと思う。

「大谷に行ったが食べる所が無かった」というような意見があることは伺っている。営利を追求する民間事業者は、まず人が来ることが前提であることから、一気に店が増えることはないかと思う。そのような中で、まちづくりに大変御尽力いただき、尚且つ地域貢献や社会貢献を積極的に行っている方々に集まっていただいて、「城山まちの駅」ができれば大谷の大きな強みになると思うので、地域ビジョンの中で総合的に構想を練っていただいても良いかと思う。本市としては、できる限りの支援をさせていただきたいと思うし、今ある補助制度なども活用していただきたいと思う。

また、スマートインターチェンジについては、観光地や中心市街地へのアクセスが向上することにより車の量も増えてくることから、国と県と市で協議している中で、交差点の改良や道路の拡幅を進めていながら、「まちの駅」の実現に向け、行政も協力させていただければと思う。

<b>発 言 3</b>	<b>廃坑の安全対策について</b>
--------------	--------------------

大谷地区には、大谷石の採石場跡の廃坑が多数あるが、地下水や雨水により、中には大量の水が入っているのが現状である。それらの廃坑は、鉄柵等で囲み、立入禁止の看板をさげる等の安全対策を講じているようであるが、単にそれだけの対策でよいのであろうかという疑問がある。中には、それらについてもきちんと成されていないような廃坑があり、また、鉄柵等が壊れているのに補修もされていないところも見かける。これらの廃坑について、さらなる現地調査を実施し、行政指導を行っていただきたいと思う。

現在のところ、廃坑への転落事故はまだ聞いていないが、その可能性は大いにある。可能性があるならばそれを防ぐさらなる前向きな対策が必要になってくるのではないかと思う。転落事故が起きてからの対策では遅い。

埋め戻しが最良の策と思うが、それが難しいということであれば、行政指導のもとで、さらなる二次的な対策として、コンクリートの板状のもので蓋をする等の対策を講じてはどうか。コンクリートの板状の蓋をするといっても蓋をするだけでは危ないので、鉄骨等で枠組みをし、蓋を補強して実施していただければありがたい。それらの実施については、当然のことながら廃坑所有者が行うことが第一義と思うが、なか

なか難しいと思うので、行政が行うことも検討してはどうか。

放置されている廃坑の安全対策が、今後の大谷地区の活性化にもつながるものと思うので、よろしくお願ひしたい。

<b>回 答</b>	<b>所管課：産業政策課</b>
------------	------------------

【市長】

大谷石採取場跡地は観光面で大いに役立つが、地元の皆様にとっては、跡地が危険なものになってしまうということがある。観光に役立たせる一方で、安全対策を徹底するということは当然なことだと思う。現状では、県において、国、県、市、学識経験者、大谷石材協同組合などから構成される「大谷石採取場跡地安全対策協議会」を設置し、大谷地域整備公社を事業の主体として、採取場跡地全体の実態把握や安全対策の推進に取り組んできた。本市としても、毎週月曜日に定期巡回を行っており、その中で立坑の変化や柵などの安全管理の状況などを確認し、必要に応じて採石業者や土地所有者に安全管理のための対応を要請している。市だけではなく、皆様にも異常な所を発見したり、何か気が付いた点があれば、遠慮なく市や大谷地域整備公社に御連絡をいただきたい。

また、御提案いただいたコンクリートの蓋については、転落防止措置の一つの手法だと思われるが、技術面や費用面から現実的には難しいのではないかと思う。コンクリートの蓋をするよりも、立坑に近付くことができないように柵などを設置するほうが有効ではないかと思う。立坑の安全対策全般については、原因者である採石業者や土地所有者が実施することが当然だと思うが、対策の実施にあたっては、大谷地域整備公社において、安全対策協議会での専門家の意見を踏まえた指導助言を行うほか、更には埋め戻しなどの安全対策事業に必要な資金借り入れにあたっての債務保証制度も設けている。

今後とも、地域の皆様の安全と安心に繋がるよう、県や大谷地域整備公社等と連携しながら、採石場跡地の安全対策に努めていきたいと考えている。

<b>発 言 4</b>	<b>駒生運動公園併設の射撃場跡地について</b>
--------------	---------------------------

駒生野球場の隣に射撃場跡地があるが、ここは国有地であると聞いており、以前に射撃場跡地を開発しようという意見があったようであるが、天然記念物のとんぼの生育地であるという理由により、開発が止まったという話を聞いている。一時その中に立ち入ることができた時期があったが、私が見る限りでは、研究の場として立ち入っているような光景は見受けられなかったので、如何なものかと思っていた。

そこで提案であるが、広大な土地が未使用のまま国の所有地となっており、管理のための維持費用もかかっているのではないかと思うので、開発していただき、ショッピングセンターや学校、病院などをつくってもらえれば、活性化という意味では有効に活用できるのではないか。市長が進めているLR Tが、西方面へ向かって中々延び

てこない可能性があるので、射撃場跡地の開発を希望する。

<b>回 答</b>	<b>所管課：政策審議室，環境保全課，文化課，スポーツ振興課， L R T 整備推進室</b>
------------	---

【市長】

駒生射撃場跡地については、歴史的にも価値があり、「湿地性・草原性種の昆虫類が生息する湿地」として、環境省が「日本の重要湿地 500」の一つに選定している。

射撃場跡地の有効活用については、周辺の地域の皆様からも「何かに活用したらどうか」という御意見をいただいている。本市としては、湿地という重要な自然環境であること、そこに生息する貴重な動植物等があるということ、歴史的な価値があるということなどを踏まえ、現時点では大切に保存していくことが望ましいのではないかと考えている。地域の皆様の思いや考えについては、今までも国に意見を申し上げてきたが、これからも適切な管理をしていただくように要望していきたいと思う。

また、駒生運動公園については、今年度、照明塔の再整備を行っており、今後も継続して野球場として活用していきたいと考えている。

なお、L R Tについては、駅東側から清原工業団地テクノポリスセンターまでを宇都宮市が整備し、そこから先については、芳賀町が整備するということになっている。距離としては 15 k m になるが、将来は、駅西側も当初の計画どおり進めたいと考えているので、城山地区の皆様にも L R T の整備を盛り上げていただくとありがたいと考えている。基幹公共交通として繋がってくれば、現在のバス路線も維持しやすくなるし、公共交通不便地域に新たなバス路線を運行するとか、地域内交通をさらに拡大するなど、地域内の交通を維持していくことにもつながるので、西側についても計画どおりに L R T の整備を進めていきたいと思う。

<b>発 言 5</b>	<b>森林公園付近への施設整備について</b>
--------------	-------------------------

先般のジャパンカップは、天候にも恵まれ、盛況であり、我々も喜んでいる。

オリンピックが 6 年後にあるが、自転車競技のキャンプ地として誘致してはどうか。さらに、その 2 年後に国体があるが、国体の本番のレース会場として、是非活用していただきたい。しかし、そのためには、駐車場やその他の施設の整備が必要である。通常は多目的グラウンドとして使用し、自転車競技などのときには駐車場として使用することを提案する。是非、実現していただき、オリンピックのキャンプ地の誘致と国体の会場につなげていただきたいと思っている。

なお、我々は地主 8 名の承諾書をいただき、先般市長にもお願いしている次第である。



<b>回 答</b>	<b>所管課：スポーツ振興課，公園管理課</b>
------------	--------------------------

【市長】

オリンピックのキャンプ地や国体の自転車競技会場として活用していただければ、自転車のメッカということにつながっていくと思うので、働きかけを行っていききたいと思うが、関係者の皆様にも打診をさせていただいてから、進めていきたいと考えている。

今回のジャパンカップにおいても、土曜日の街中でのクリテリウムは4万1千人、ロードレースも皆様の御協力をいただき約8万人と盛り上がる大会になった。長年にわたり、皆様に御協力いただいたおかげだと思う。

御提案いただいた駐車場の整備については、年に1回の大会のために土地を買うことは難しいということもあるので、勉強させていただききたいと思う。

<b>発 言 6</b>	<b>まちの景観について</b>
--------------	------------------

まちづくりには、そのまちがどういうまちになっているかという景観が非常に重要だと思う。城山地区の景観をどのようにするかというビジョンがあれば、説明いただきたいと思う。例えば、スマートインターチェンジをつくる時、道路を拡張するときに、こういう景観で整備するというを決めずに行政がバラバラに整備すると、何か場違いな物ができてしまう。

もう一点、これは宇都宮市の財産だと思うが、荒針地区に大谷公会堂があるが、道路拡張でそれを移転するかどうかの中々決まっていけないようなので、それについても伺いたいと思う。

<b>回 答</b>	<b>所管課：都市計画課，河川課，道路建設課，文化課</b>
------------	--------------------------------

【市長】

まちづくりの景観については、ある程度の統一感が必要になってくると思う。本市では、景観条例を制定し、必要な所は景観形成重点地区に指定し、色彩などを統一するよう、ある程度の規制を民間事業者にもかけている。

本市では、橋を新設するときや道路を拡幅するときにも統一感を持たせ、なるべく安全や景観などに配慮したデザインの設計を行うようにしている。また、案内板については、歴史などにも配慮し、特に大谷石を支柱に使用したり、案内板の後に大谷石を貼って、その上に保護塗装をするなど、そのようなことも行いながら景観に配慮しているところである。

また、旧大谷公会堂については、県道の拡幅範囲に一部入ることから、県の事業進捗を確認しながら、移転するか、曳き舞いにするか、移築・整備の方向性について考えていきたいと思う。

## 発言 7 大谷街道の歩道整備について

スマートインターチェンジに関して、ふれあい通信により、市長に要望を伝えたところ、10月9日に返事をいただいた。それに関連するが、大谷街道は、高速道路からサンクスの辺りまで歩道が無い。孫が小学校へ通っているが、車道しかなく、歩道が無い。「トラックに触っちゃった」と孫が帰ってくる。今まで事故が無いことが不思議なところなので、是非一度道路を見ていただき、子どもが安全に通えるような通学路にしていきたいと思う。高速道路から西に向かってサンクスまでの大谷街道に歩道が無いので、生垣とトラックの間を歩いて通学しているような状況なので、小さい問題かと思うが、事故がおきない内に対応していただければありがたい。

## 回答 所管課：土木管理課

【市長】

スマートインターチェンジを設置する関係で、この場所を拡幅することになっている。県からは、必要な所から道路を拡幅するという説明をいただいている。今後、県が地元説明会を開くと思うが、そのときに県から詳しい説明があると思う。

【土木管理課長】

この場所については、早急に整備すると県から聞いている。今年度中に、皆様にスマートインターチェンジの説明をするときに、大谷街道の拡幅の話もしていただくことになっている。県には、市から事情を伝えさせていただきたいと思う。

## 発言 8 子どもたちへの福祉教育について

これから団塊の世代の人たちが、かなりの高齢者になるときに、介護する方がいない。現在、大学でも、授業料が無料、交通費を1万円出すというような状況で募集している所もある。できれば、中学生、小学生から認知症サポーター養成を受けさせるということを授業の中に取り入れていただき、福祉の理念などを教えていただきたいと思う。

## 回答 所管課：高齢福祉課，保健所総務課，学校教育課

【市長】

国は、団塊の世代の方が75歳以上になる2025年を目途に、地域包括ケアシステムの構築を進めている。住み慣れた地域における在宅医療・介護サービスの提供体制の整備に向け、医療介護総合確保推進法ができ、市町村の役割がはっきり明記された。この方針に従って、介護サービスを充実させていかなければならないが、介護する人の充実を図っていくことが大切だと思う。その中で、子どもたちにも介護の必要性や介護の難しさなどを理解していただくとともに、中学生や小学生にも認知症サポーターの輪が広がっていくように、行政としても教育委員会と連携しながら進めていきたいと思う。